

教育学部

- 教育学科
- 乳幼児発達学科

人材養成等教育研究に係る目的

教育学部は、文学部教育学科時代を含む約 60 年におよぶ歴史を通し、単に幼児教育、初等教育、中等教育の学校教育の分野のみならず、広く社会教育の分野でも活躍する多くの人材を輩出し、その活躍によって社会から「教育の玉川」という高い評価を受けてきた。現在教育学部は、教育学科と乳幼児発達学科の 2 学科から構成され、0 歳から 18 歳までの教育、保育をすべてカバーする「教育・保育の総合学部」として、学校教育、生涯教育、社会教育はもちろん、ヒューマンサービスの分野で活躍できる人材の養成を目指している。

教育学科は、学校教育界における指導者（幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭〈社会、保健体育〉、高等学校教諭〈公民、保健体育〉）のほか、豊かな精神生活を支える新しい文化生活のコーディネーター、キャリアカウンセラー（図書館司書、社会教育主事、学芸員等）として活躍できる人材の養成を目指している。

乳幼児発達学科は、幼稚園教諭や保育士のほか、社会的ニーズが増大している子育てコーディネーターとして、幅広い分野で活躍できる人材の養成を目指している。

ディプロマ・ポリシー

上記の人材育成の目標に向けて次の学習成果を果たした者に学位を授与します。

- (1) 教育・保育に携わる者として基礎的な言語操作力、数理分析力を確実に身に付け、教育・保育に関する確かな専門的知識を修得している。(知識・理解)
- (2) 教育・保育に関する専門分野での知識に基づき、自ら課題を論じ、研究を重ねることで教育・保育における現代的課題について自らの知識に基づく考察を述べ、解決のための方途を立案し実践に向けて主体的、創造的、協同的に取り組むことができる。(思考・判断)
- (3) 教育・保育活動に取り組むための実践的な技能・表現を身につけ、教育学的知見に基づいて教育や保育の場で活かす力を身に付けている。(技能・表現)
- (4) 教職や保育等、ヒューマン・サービスの社会的意義と特性を理解し、使命感をもって子どもの成長と福祉とに貢献できる。本学で培った「人間力」「専門力」を通じて、我々を取り巻く様々な社会的諸問題に主体的に関心を持ち、児童・生徒・社会に対する様々な対人コミュニケーション能力に基づく「社会力」を身に付けている。(関心・意欲・態度)